2013年度

土を考える会 夏期研修会

取材・まとめ　加藤祐子

▶7月3日、4日
（北海道上富良野町）

北海道

日欧プラウの真っ向対決!!
日本のプラウ・世界のプラウ、その違いとは？

北海道土を考える会の夏期研修会は北海道上富良野町の土の館・ホワイト農場にて8月3～4日に開催された。道内各地から農業経営者が集まり、本州からの参加者も含めて120名余りが集結した。近年雨に見舞われていた同研修会だが、今年は天気に恵まれ、圃場での実演も行なわれた。

奥山和徳会長の挨拶の後、小尾一彦氏の進行でディスカッションが始まった。最初のテーマは「現状における耕起作業の実態―水田・畑作において最適な耕起方法とは何か?」。事前アンケートによれば、プラウを使っている人は52%、詰め物作業機を使っている人は32%だった。春作業に限れば、耕起作業を行なわなかったという回答が1／3を占めた。長門茂明氏が「簡易耕や不耕起は良い策度と排水条件が整った上で成り立つと思うので、プラウ耕との使い分けが必要」と話すなど、参加者らが**圃場の土の特徴と作業についてそれぞれ意見を出した。**

圃場に場所を移し、日本のプラウ1台、海外製のプラウ4台の実演「プラウ　ワールドカップ!?　2013」が開催された。村井信仁氏の解説・進行により、1台ずつ実演が始まると参加者はじっと働き込まれる様子を観察した（詳細は写真①～⑤）。実演の後、同氏は「どのプラウが良いかなどということは言えない。それぞれの土質や好みがある。違いがあるとすれば、表層の残渣物の鋤き込み位置が低い位置にあるか、若干高いかくらいだと思う」と総括した。その後、再度着席し、事前に撮影した5台のプラウが緑肥を鋤き込む様子を撮影したビデオを見ながら再検証した。

続いて、2つ目のディスカッション「今の土中環境で異常気象は乗り切れるのか!?　－春作業、遅れの原因は本当に異常気象だけなのか?」へ。今年の春先の天候不順で、道東のオホーツクエリア、十勝エリアを中心に春作業に大幅な遅れが出た。斜里町の村上政則氏は「春小麦の作業を行なった4月中旬までは順調だったが、その後日照不足で3週間、畑が乾かなかった」と同地域の状況を報告した。天候に合わせた作業体系の選び方を再検討する会になったようだ。



プラウの展示・実演の解説はお馴じみの村井信仁氏

⑤スガノ農機　VRY204FC（規格：18-20-22×4）







カバーボードあり
ジョインタあり

耕起深30㎝、出来高53㎝、鋤込位置6㎝
「鋤き込み時にジョインタとカバーボードが上手く作用している。カバーボードは作物残渣物を鋤き込むために開発されたもので、日本には昭和40年代に入ってきた。ジョインタとカバーボードを利用したボトムの形状が特徴」



実演と情報交換を楽しみに農業経営者が集まった

PLOUGH WORLD CUP!? 2013

※コメントは村井信二氏による解説

①レムケン　Vari-Opal 8







カバーボードあり
ジョインタあり

耕起深30㎝、出来高53㎝、鋤込位置3 ～ 19㎝
「ドイツ製でカバーボードもジョインタも両方ついている。発土角を狭くして、発土板を長くしているので、カバーボードが要らないと思うかも知れないが、良くみるとカバーボードが鋤き込みに留目をさすような形で補助しているのが分かる」

②クバナランド　VD93







カバーボードあり
ジョインタなし

耕起深30㎝、出来高46㎝、鋤込位置5 ～ 28㎝
「ノルウェー製でジョインタがなく、カバーボードだけのタイプ。カバーボードが実に上手な鋤き込みをしているところがお分かりいただけたと思う」

③ダウズウェル　DP8







カバーボードなし
ジョインタあり

耕起深30㎝、出来高47㎝、鋤込位置5 ～ 25㎝
「イギリス製。ジョインタだけでカバーボードはない。反転時に礫が良く砕かれていることが分かる。それはイギリスらしく発土角が広いということ。だから、反転・鋤き込みに力をくれているともいえる」

④オーバーラム　XCELSIOR CX







カバーボードなし
ジョインタあり

耕起深30㎝、出来高52㎝、鋤込位置11 ～ 23㎝
「デンマーク製。ジョインタだけでカバーボードはない。ジョインタがどう作用しているかが分かる。鋤き込み方が不安定に見えるが、ボトムが長い形状を工夫して何とか鋤き込んでいる」